

CASBEE神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3

■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)連絡ロビー・エネルギー施設	階数	地上8階 地下1階
建設地	神戸市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	48人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年3月22日
敷地面積	9,513 m ²	作成者	丹下直洋
建築面積	956 m ²	確認日	2021年 月 日
延床面積	4,631 m ²	確認者	〇〇〇



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 2.5 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 CASBEE神戸の重要項目		
バリアフリー計画 Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 3.0	建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 5.0 Q-2/2.4 信頼性 5.0	まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 5.0
配慮の概要 バリアフリー新法の建物移動等円滑基準を満たし、さらに建築物移動等円滑誘導基準を極力満足させる計画とする。		
配慮の概要 本建物は3階と4階の間に免震層を設けた中間層免震構造を採用しているが、免震階、非免震階ともに大地震時においても構造躯体が損傷しない(短期許容応力度以下)ことを目標としている。		
配慮の概要 基壇部分は既設1号館外装と同材で構成し、連続した緑地空間を形成。中段部は、既設1号館外壁近時の色彩で単調なマスヴォリュームの印象にならないようにランダム貼りにて構成。高層部は、街並みに調和させるため、ヴォリューム感を軽減したアルミカーテンウォールを設置。		
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE神戸ver.3
 (仮称)連絡ロビー・エネルギー施設他工事

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.6
Q1 室内環境							0.40			3.3
1 音環境						3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を使用				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						2.9	0.25	-	-	2.9
3.1 昼光利用						2.2	0.30	-	-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		共用部にトップライトを設置し、自然採光を確保、照明負荷を低減				4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		防災センター、守衛室750Lx				4.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						4.3	0.25	-	-	4.3
4.1 発生源対策						5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用				5.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.3	0.30	-	-	
1 換気量		30m ³ /(h・人)を確保				4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.7
1 機能性						3.3	0.40	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ						3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		防災センターは、50VA /m ² 以上の電源を確保				5.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						1.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.33	-	-	
3 内装計画		コンセプトに基づく内装計画とパースによる検証を実施				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		メンテナンスデッキを設置、維持管理に配慮				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		屋上に設備架台を設け、メンテナンスに配慮				3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.7	0.30	-	-	4.7
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		免震構造を採用しており、告示レベルにおいて部材を損傷させない				5.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		免震構造を採用しており、建物全体の加速度を低減				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						4.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		耐用年数一覧表より耐用年数30年以上の材を採用				5.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		耐用年数一覧表より耐用年数20年以上の材を採用				5.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		シャワー室系統の100%にSUSダクトを採用				5.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		汚水・通気・雑用水管の横引き管にVP系を採用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						5.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		ガス・電気熱源のベストミックス、系統分け、耐震クラスS				5.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		エコマーク商品、系統分け、受水槽2基、緊急汚水槽、井水利用				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		非常電源設置、受電設備2重化、浸水リスク無し				5.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		耐震クラスSとして設計用水平震度を設定				5.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		通信手段の多様化、浸水リスク無し、TV単独受信可能				5.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.3	0.30	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			3.4	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上確保	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	搬入ルート確保、更新スペース確保、機能維持しながらの更新・修繕	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.9
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		税関線沿道景観計画区域の景観計画に則して景観に配慮	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ピロティにより豊かな中間領域を形成。軒天に木材を使用	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		高断熱化、Low-Eガラスの採用	4.4	0.20	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.1
1 水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
1.1 節水		自動水栓、節水型便器、擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.7	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水を灌水に利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減		プレストレスコンクリートの採用	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		杭に高炉セメントを使用	5.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床材、排水硬質ポリ塩化ビニル管	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		持続可能な森林から算出された木材を使用	5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		LGS+仕上、OAフロアを採用し容易に分別可能な計画	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含まない材料を選定	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤	不活性ガス消火設備として窒素を採用	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0の断熱材を採用	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		高効率熱源、LED照明、各種省エネ手法	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	屋外照明光害チェックリスト過半クリア、広告物照明なし	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	